

特集

顔

私たちは普段の生活で視覚に頼るところが大きいです。様々な視覚情報の中でも、他者とのコミュニケーションの際に最も重視されるのは言うまでもなく顔でしょう。私たちは言葉だけでなく、表情や顔の向きなどからも様々な微妙な情報を読み取っています。また、顔色をうかがう、顔を立てる、顔が売れる、あわせる顔がない、顔が広い、顔に出る、何食わぬ顔、など、顔にまつわる慣用句も数多くあります。このように私たちにとって普段からなじみの深い顔ですが、心理学の分野でも、様々な観点から幅広く研究されています。顔に浮かべる表情とその認識、顔の向きの変化による印象や認識の変化、主に顔に施される装いである化粧についてその意義とその効果、そして、人間以外の動物たちの表情や顔の認識についての研究も行われています。

今回の特集では、「顔」について、異なる四つの観点から最新の研究動向について寄稿いただきました。普段見慣れた「顔」ですが、心理学というレンズを通じて色々な観点から見ると、また違った「顔」が見えるのではないのでしょうか。

(漆原宏次)